

鉄骨用親網支柱

鉄骨組立作業、養生金網等作業、スレート屋根工事に最適!

鉄骨用親網支柱 SK-80D平行型

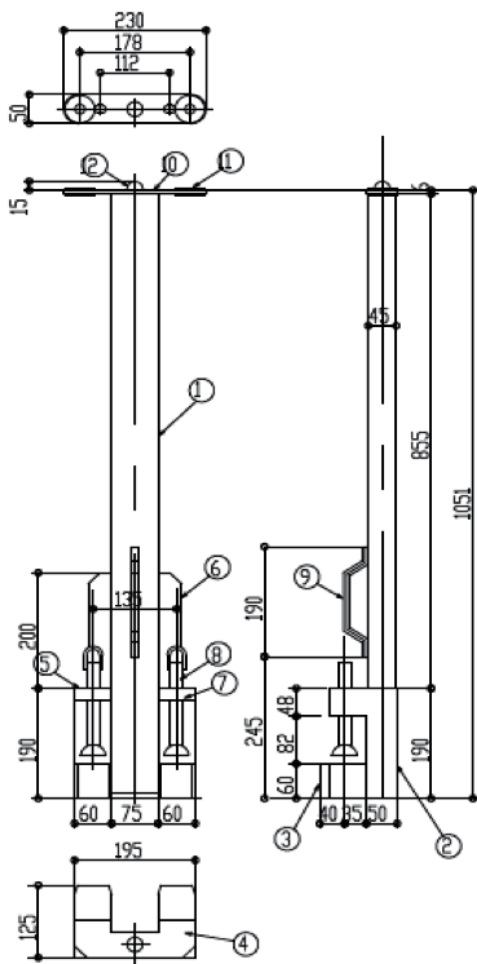


■特長

・鉄骨の最上階や中間層や橋梁等で合成ロープを張るための支柱です。

■特長

・高所作業に用いる安全帯のフックを掛ける親網を張る為の支柱です。



番号	内 訳
1	支柱 角P75×45×1.6×1035
2	曲PL 3.2×190×(110+60+110)
3	曲PL 3.2×60×(15.8+50+15.8)
4	PL 2×65×188.6
5	曲PL 4.5×53.6×(20+106.8)
6	PL 3.2×38×200
7	ナット W7/8並目 3種
8	スタッドボルト W7/8 並目
9	曲丸棒φ9×(222・2)
10	PL 6.0×50×230
11	P φ27.2×2.6×28
12	ゴム栓 φ25穴用

使用基準・使用方法

■鉄骨用親綱支柱の使用方法

- 鉄骨用親綱支柱を設置する場合は、平行方向に親綱を張って下さい。直行方向には絶対に親綱を張らないで下さい。
- H鋼のフランジ部分は、確実に支柱ボックス部の奥まで差し込んで下さい。
- 親綱支柱設置間隔は10m以下で使用してください。
但し、作業床と衝突のおそれのある床面や機械設備などとの垂直距離が少ない場合、下記のスパンで支柱を設置して下さい。

垂直距離 (m)	3.8	4	4.5	5	5.5以上
支柱設置間隔 (m)	3.2	4	6	8	10

※但し、垂直距離は3.8m以上確保すること。

それ以上の間隔で親綱を張った場合、作業者が地上に接地する可能性があります。

- 親綱のフックを支柱の天板部分の穴に装着して、親綱の端部に緊張器 (JK-SUSII等) をセットしてもう一方の親綱支柱の天板部分に装着して下さい。
- ボルトはラチェット等で均等に6KN・cm以上で締め込んで下さい。
(目安として全長30cmのラチェットで20kgの力)
- 一度、落下衝撃を受けた親綱支柱は絶対に使用しないで下さい。
- 16ミリ合成繊維三打ロープ (仮設工業会の認定基準に準じた親綱) を使用して下さい。又、破損した親綱や1度落下衝撃を受けた親綱では絶対に使用しないで下さい。
- 親綱を張る緊張器は、仮設工業会の認定基準に準じた製品を使用して下さい。
- 親綱は目で見てたわんでいないか、わずかにたわむ程度に、人力で0.3KN (約30Kgf) 程度で張って下さい。
- 親綱を張る前に、作業者は安全確保 (安全帯フックを躯体等に取り付ける) してから親綱を張って下さい。
- 1スパンに作業者は必ず1人でご使用下さい。
- 用途以外の使用はしないで下さい。